「友松」の変遷 Ⅱ

2010.11.8 発行
シリーズ２−５
「友松」39 号

（1）　第三九号　友松会報　昭和30年9月10日

終戦拾年
会長　小林梅蔵（大四卒）

郷土愛について
天野貞祐

編輯子申す

終戦から１０年、世の中も落ち着き、友松会も支活動がんになってきたようである。

天野貞祐氏（津久井郡出身・当時の文部大臣・右記事写真）の「郷土愛について」と題する文に、「郷土愛とか愛校心とかいう愛には、愛国心と通ずる。出身校を愛することは他校を排斥することではない。それと同じく日本を愛することは世界に背くことではない。日本を立派な独立国に育てあげ、世界に寄与する文化を創造することこそ祖国愛にして、しかも世界人類に対する愛でなければならない。真の愛国心は人類愛と一致する」と書かれ、「戦後の子供たちは、郷土愛どころか愛国心をも失おうとしている。愛国心がなくして独立国家は建設しうるか。この痛切な現実の問題を自分の問題として自分の頭でめいめいに誠実に考えることを教育諸者にお願いしたいと思う」結んでいる。

母校の卒業生と入学状況
岩実験所使用要項

「母校の卒業生と入学状況」(昭和 30 年 4 月)

	小	中	高	他	進学	未	計
4 年課程	48	143	3	3	8	18	223
2 年課程	81	50	0	1	71	13	216
計	129	193	3	4	79	31	439

昭和 30 年度入学状況

課　程	定員	志願者	入学者
4 年課程	320	1,266	283
2 年課程	240	306	157
計	560	1,572	440

昭和３０年７月、「岩実験所」が落成している。（上記記事写真）そして、７・８月の利用者が、次のように記録されている。

国大教官・学生	225
小中高教諭	423
小学校児童	470
中高校生徒	170

第三九号　友松会報　昭和30年9月10日　（4）

文苑

〃父っつあんよ〃
〃不知火の旅〃
〃俚謠〃
〃俳句〃